

JUKI 統合報告書

Integrated Report 2025

Building Sustainable JUKI

編集方針

JUKIにとって、2025年はきわめて大事な転換期です。

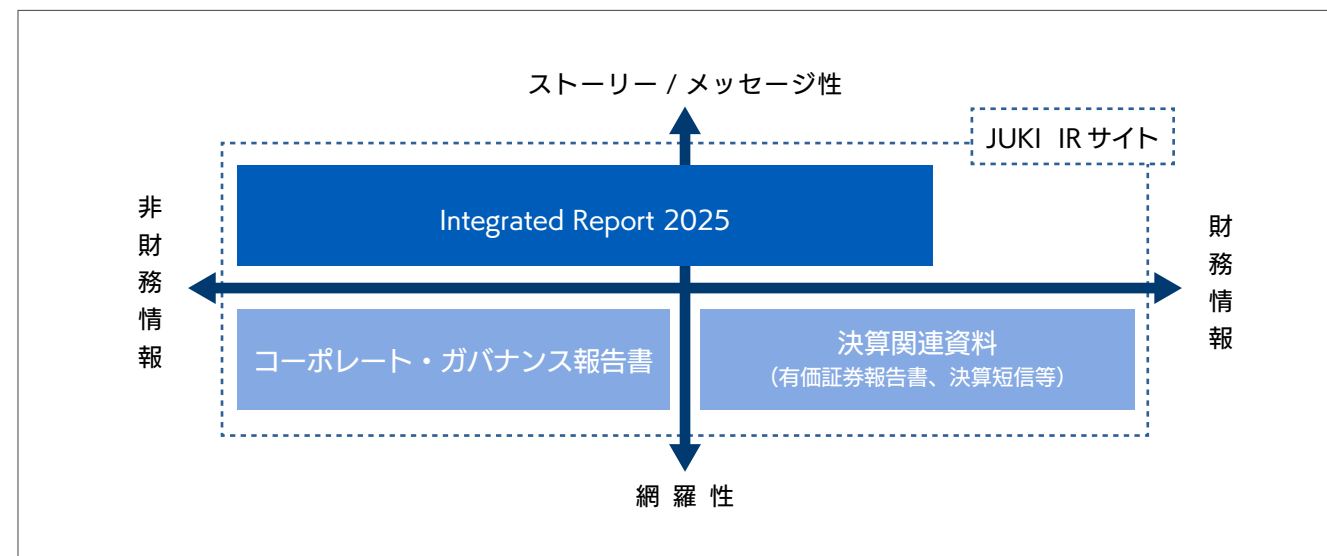
2025年をゴールとする中期経営計画を進めてきましたが、主力事業を取り巻く環境変化によるビジネスモデル変革やサステナビリティ課題への対応を加速させる必要があると判断し、中期経営計画を全面的に見直しました。持続的な成長ができる経営基盤を再構築するため、経営理念を新たに制定し、その下で5カ年中期経営計画を策定し、取り組んでいます。「Integrated Report 2025」では株主・投資家をはじめ、様々なステークホルダーの皆様に、JUKIへのご理解を深めていただける内容・構成としています。

編集にあたっては、外部フレームワークを参考にしつつ、ステークホルダーの皆様からいただいたご意見を、マネジメントと制作チームで議論を深め、より多面的に掲載内容を見直し、改善と拡充に努めています。

「Integrated Report 2025」でお伝えしたいポイント

- Point 01 経営執行体制の刷新による対処すべき課題への取り組み
- Point 02 2大事業（縫製・産機）のビジネスモデル変革による成長戦略
- Point 03 持続的な成長に向けた、財務規律の強化とESG経営の実践

情報開示体系（本報告書の位置付け）



主な情報開示ツール	掲載内容	
Integrated Report 2025	中期視点の経営戦略や今後の展望を中心とした年次報告書です。	
コーポレート・ガバナンス報告書	企業の統治に関する取り組みや目的を記載した報告書です。	
有価証券報告書	基準等に沿った財務側面の詳細を記した年次報告書です。	
JUKIコーポレートIRサイト	中期経営計画や投資家様向け説明資料など JUKI に関する株主・投資家情報を網羅したサイトです。	

「Integrated Report 2025」の発行にあたって

当社は、持続的な企業価値向上に向けた取り組みについて、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に、より一層ご理解を深めていただけるよう統合報告書を毎年発行しています。

「Integrated Report 2025」では、JUKIのあるべき姿に向けた新中期経営計画「Building Sustainable JUKI」で掲げる2大事業を軸とした成長分野へのビジネスモデルの構築、それを支える財務規律の強化、ESG経営の実践により、「Sustainable JUKI」の実現に向けて取り組む具体的な施策を掲載し、持続的な成長の可能性についてご理解を深めていただける内容を盛り込みました。

JUKIは引き続き、ステークホルダーの皆様への適時・的確な情報開示と積極的な対話に努めていきます。ステークホルダーの皆様には、「Integrated Report 2025」を通じて、JUKIの取り組みへの一層の理解を深めていただくとともに、対話促進の一助となれば幸いです。



取締役常務執行役員
橋本 圭一

ステークホルダーの皆様からのご質問やご要望に応えるコンテンツ

JUKIの歴史を知りたい	Page03-11 P5	Chapter 1 JUKI の存在理由
中期経営計画の取り組みを知りたい	Page12-19 P16	Chapter 2 中期経営戦略
主力事業の戦略や展開を知りたい	Page20-27 P21	Chapter 3 サステナブルな事業戦略の構築
技術力の優位性や差別化について知りたい	Page28-39 P35	Chapter 4 経営基盤の強化 開発
人財、組織力の取り組みを知りたい	Page28-39 P32	Chapter 4 経営基盤の強化 人財
ガバナンスの機能だけではなく、課題や改善点を知りたい	Page40-49 P42	Chapter 5 ガバナンス 社外役員座談会

参考になっているフレームワーク

- IFRS 財団 統合報告書フレームワーク
- 経済産業省 価値協創ガイダンス



価値協創ガイダンス
Guidance for
Collaborative Value Creation

目次

01 JUKI の存在理由

At a Glance JUKI の 3 つのプレゼンス	4
価値創造のあゆみ	5
新経営理念・JUKI グループ経営理念体系	6-7
価値創造プロセス	8
経営資本	9
マテリアリティ	10-11

02 中期経営戦略 Building Sustainable JUKI

社長メッセージ	13-15
5 カ年中期経営計画（2025-2029）	16-18
財務戦略	19

03 サステナブルな事業基盤の構築

事業概況	21
事業戦略 縫製事業	22-24
事業戦略 産機事業	25-27

04 経営基盤の強化

ESG 経営の実践	29
環境	30-31
人財	32-33
品質保証	34
開発	35-36
生産	37
サプライチェーンマネジメント（調達）	38
社会貢献活動	39

05 ガバナンス

役員一覧	41
社外役員座談会	42-43
コーポレート・ガバナンス	44-47
コンプライアンス	47
リスクマネジメント	48-49

06 データセクション

11 カ年主要連結財務データ	51
財務・非財務データ	52
グローバル拠点	53
外部からの評価	54
会社概要・株式情報	54

制作体制および社内での活用

本制作にあたり社長をはじめ経営層が積極的に制作に参画しています。また、誌面には多くの社員の日々の活動をトピックスとして掲載しています。本報告書は日本語版・英語版を作成し、全社員に周知することで社員一人ひとりが、自社の現在地を把握し、自社の未来を語る事ができるツールとして多くの部門で活用しています。

報告対象範囲

JUKI株式会社を中心に、グループ会社23社を含めた活動について報告していますが、一部はJUKI株式会社単体での内容になっています。

報告対象期間

2024年度（2024年1月1日～12月31日）ですが、一部2025年度の情報も含まれます。

発行時期

2025年7月

見通しに関する注意事項

本報告書はJUKIの見通し、目標、計画、戦略など将来に関する記述が含まれています。これらは、本報告書の発行時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、様々な要因により、見通しとは異なる可能性があることをご承知お願います。

- * 本文中「JUKI」と表記した場合はJUKIグループを、「当社」と表記した場合はJUKI株式会社を指します。
- * 本レポートに掲載されている画像などの無断転載はご遠慮ください。

表紙について



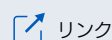
2025年開始の中期経営計画「Building Sustainable JUKI」から“再生と進化”をイメージしたJUKIキービジュアルをモチーフにデザインをしています。様々に取り巻く社会課題に向けて、JUKIが作り上げてきた歴史とともに、社員が一丸となり新たな未来に向けて立ち上げる誓いを、JUKIコーポレートカラーであるブルーのラインで表現しています。

インタラクティブ PDF の使い方

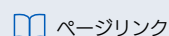
前に見ていたページに戻ります



目次に戻ります



リンク



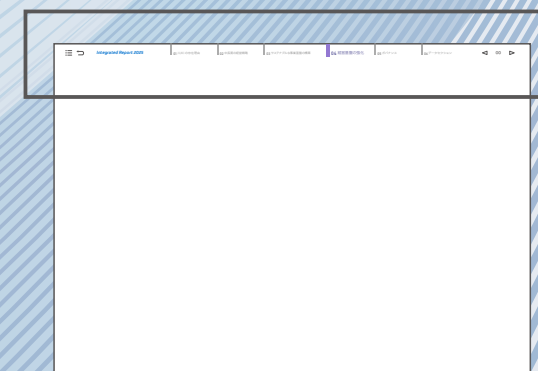
ページリンク

クリックすると各コンテンツの最初のページに移動します

1 ページ進みます



1 ページ戻ります



01 JUKI の存在理由



Building Sustainable JUKI

At a Glance JUKI の3つのプレゼンス	4
価値創造のあゆみ	5
新経営理念・JUKI グループ経営理念体系	6-7
価値創造プロセス	8
経営資本	9
マテリアリティ	10-11

At a Glance JUKIの3つのプレゼンス

① 世界の縫製工場のパートナー

急激な世界人口増に伴う
アパレル生産需要に対応



引用元：国連 世界人口統計データ

② 多様な縫製ニーズに応える

ミシンのデジタル化で、
高機能素材の厚物縫製が可能に！

自動車 車載関連品：内装・シート、エアバッグ、シートベルト



アパレル服飾小物



住(家具)・特殊素材服



③ 縫製現場を変える

縫製現場が抱える社会課題を
人にも環境にもやさしい縫製現場へ！

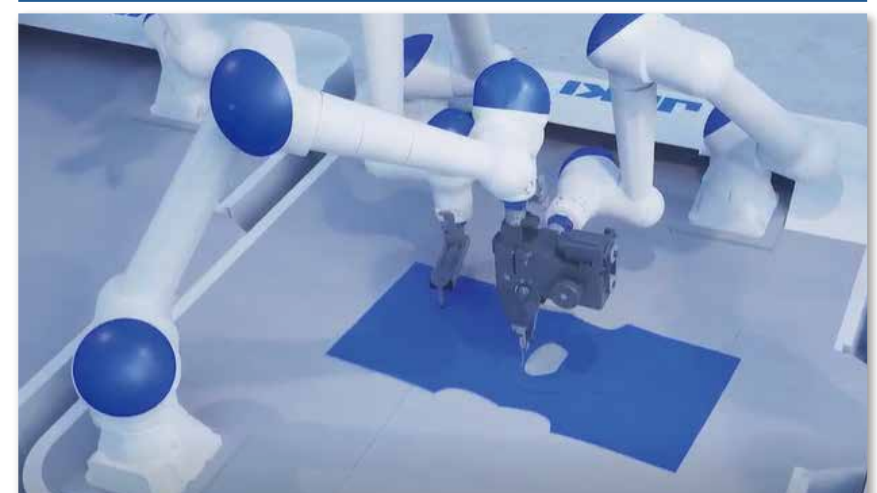
(現在)



働き手不足や環境負荷の低減

AI・ロボティクス・IoTによる
縫製機器の自動化・クリーンな環境

(将来)



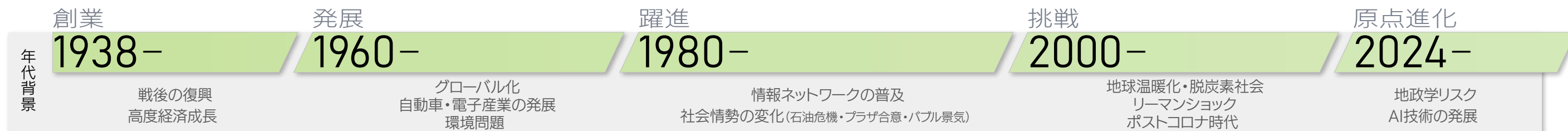
* 画像はイメージです

価値創造のあゆみ

JUKIのあゆみについての詳細はウェブサイトをご覧ください [🔗](#)

「ものづくり DNA」「トータルソリューション」「グローバルな市場開拓力」で時代の変化に挑み続けます

JUKIは戦後平和産業に徹し、衣服を通して世界の人々に豊かな生活をもたらしました。また、そこから発展した事業により、世界の産業と人々の暮らしを支えています。これからも私たちは経営理念に基づいた事業活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指し、豊かな暮らしを世界中に提供していきます。



JUKIの歴史

1946
● 家庭用ミシンの開発・製造開始
● 北米へ家庭用ミシン輸出

1947
● 工業用ミシンの開発着手

1957
● 香港へ工業用ミシン初輸出・サービス体制を構築

1961
● エレクトロニクス分野へ進出 | 電子関連事業開始

1962
● 特殊ミシンの開発開始

1964~
● グローバル販売体制を目指し各地に拠点設立

1971
● ものづくり強化 | 大田原工場設立

1976
● 品質経営を目指し、TQC活動導入

1982
● 通産省主導で進められた「自動縫製システム研究」に代表理事会社として参画

1984
● アパレル生産をシステム化する提案型企業として「アパレル・トータルシステムサプライヤー」を宣言

1987
● 表面実装技術(SMT)分野に新規事業参入

1990
● JUKI初の海外製造工場を中国に設立

1995
● ベトナムに部品工場設立 | タントゥアン輸出加工地区日系企業初

2001
● 中国の製造・販売を統括する重機(中国)投資設立

2008
● ベトナムに研究開発拠点設立

2012
● ノンアパレルカンパニー新設

2014
● ソニーイーエムシーエス(株)実装機器事業部門と新会社(JUKIオートメーションシステムズ(株))設立

2016
● スマートファクトリーコンセプトJUKI Smart Solutionsを提唱

2019
● ESSEGI AUTOMATION社を合併で設立

2019/2021
● YKK社と共同開発/ PEGASUS社事業提携

2022
● 三菱電機子会社と新会社(JUKIテクノソリューションズ(株))設立

2024
● インドに製造工場設立

お客様価値を実現した製品・技術・サービス事例

1947
● 家庭用ミシン第1号機 HA-1 発売

1953
● 『単軸回転天秤機構』を発明
日本のミシン技術が海外を凌駕する契機となるとともに日本の工業用ミシン発展の礎

世界初 | 未来技術遺産登録



DDW-12型(DDW-II型後継機種)

1959
● 縫製能率研究所設立
縫製工場の生産性診断サービス開始

1961
● 電子周辺機器(カードパンチ機) 発売



1969
● 『自動糸切り機構』開発 **世界初**
工業用ミシンの自動化の道を拓く技術を開発



1985
● 自動糸調子機能付家庭用ミシンHXL-7000(ザ・ミシン) 発売
使いやすさに拘った自動糸調子機能を開発し、世界中で大ヒット **世界初**

1987
● 小型エントリーマシンKP-350 発売
モジュラーコンセプトによる小型実装機分野を開拓

1990
● ポータブルタイプ職業用ミシンTL-90 発売 
縫製のプロが認めた職業用ミシン。工業用ミシン技術を多数搭載しながら、ポータブルサイズを実現

1996
● 下糸自動供給装置AW-1A 開発 **世界初 | 機械振興協会賞**
工業用本縫いミシンの下糸の無限供給機構の実用化と製品化

1999
● 高速本縫自動糸切ミシンDDL-9000D 発売
工業用ミシン「ダイレクトドライブ方式」「無給油ドライヘッド」を開発

● 電子眠り穴かがりミシンLBH-1700シリーズ発売 **世界初**
眠り穴かがりの縫い形状の変更を電子制御化

2013
● 伊ESSEGI社自動倉庫システム販売開始

2016
● 当社初デジタルミシンDDL-9000C発売
工業用ミシンのデジタル化による生産性、操作性アップ

2017
● 実装統合システムソフトウェアJaNets 発売

2018
● 設備稼働管理システムJaNets 発売
縫製工場向け生産管理ソリューションサービス

2024
● 高速フレキシブルマウンタ LX-8 発売
機械工業デザイン賞 最優秀賞

2025
● 一本針本縫いミシン DX-01 発売
6本ベルト送りアシスト機構搭載
ソーイングシステム **世界初**

社会や業界へのインパクト

● 既製服時代の到来を予見した技術開発

● ソリューションの原点となる縫製工場向け
コンサルティングサービスでお客様との信頼構築

● 新興国の産業創出と経済発展支援
● 大量生産時代への対応

● 世界トップの総合ミシンメーカーの地位を確立

● 多様な社会や文化に応える世界初、業界初の技術を実現

● グローバルな販売体制・生産体制の確立

● 多品種少量生産時代への対応

● TQM(総合品質管理)で最も権威ある
『デミング賞』を1981年受賞

● 職業用ミシンSPUR 90
1990年度『グッドデザイン賞』受賞



● 衣服以外のノンアパレル品の縫製需要に本格対応

● 環境に配慮した技術開発・企業活動を強化

● 生産工程での遠隔リモートに対応したソリューション

● 職業用ミシンSL-700EX
2023年度『ロングライフデザイン賞』受賞



新経営理念

制定への想い

JUKI を取り巻く環境は、急速に変化しています。社会・人の価値観の多様化、株主やお客様をはじめとしたステークホルダーのニーズの進化に直面し、私たちの存在理由や将来に向けた方向を改めて見つめ直す必要性を感じました。新しい経営理念・理念体系には、私たちの原点にある「人々のしあわせを実現し、社会に貢献すること」、そして「サステナブルな社会の実現に貢献したい」という想いが込められています。この理念の変更は、変化への柔軟な対応力と将来への前向きな意志表示でもあり、ユニークな点として社員が同じ方向を向いて、理念を起点とした新中期経営計画との“結びつき・実効性”を目指すことであり、私たち自身がサステナブルな企業となることを表現しています。

私たちの存在理由

JUKI グループは、縫製技術で築き上げた実績を礎に、「衣・社会のサステナブル」を支える企業で在りつづける

私たちのビジョン

*Innovation for your
Sustainable Future*

私たちの価値観

JUKI = 重機 **重**

- ① **重** なる信頼
- ② **重** 厚なつながり
- ③ **重** みある責任
- ④ **重** 圧に負けない力
- ⑤ **重** みあるイノベーション
- ⑥ **重** 厚な生産技術基盤
- ⑦ **重** 視するサステナブル
- ⑧ **重** く響く感動

（Why）存在理由の意味・原点進化

衣食住は人々の生活に不可欠な要素です。

特に「衣」の分野で JUKI グループは

85 年余りの永きにわたり、

優れた製品・サービスで高い縫い品質の衣類を

安定して供給できるソリューションを

世界中に提供してきました。

世界は今、様々な社会課題を抱えています。

JUKI グループはモノ - コトづくり企業として、

この先もその課題解決に一つ一つ取り組み、

技術革新と総合力で、「衣・社会」の未来を支え続けます。

（What）目指す姿

新中期経営計画のゴールとして

お客様と共に生産現場を

“スマートファクトリー・自動化技術を核に、

社会と共に持続可能な未来を創る“

ことに尽力します。

（Who）社員一人ひとりのらしさ

- ① 私たちの製品・サービスは、お客様と共に積み重ねられた品質を基盤にしています。これから先も、技術品質と誠実な対応を通じてお客様に揺るぎない安全・安心を提供します。
- ② 私たちのバリューは、お客様、パートナー、社員そして社会との深いつながりを基本としています。このつながりを重んじ信頼関係を築くことで、共に未来を創造していきます。
- ③ 経営には社会的責任が伴います。私たちは、全てのステークホルダーに対して深い責任を持ち、世界のどの会社にも負けない事業体質やブランドをもつ強い会社を目指します。
- ④ 私たちは、どんな困難や挑戦にも耐え抜く力を持っています。市場の変化や厳しい競争環境の中でも、JUKI はグローバルネットワークを持ち、常に前進し続ける力強さを大切にします。
- ⑤ 私たちは、表面的な新しさにとどまらず、過去の経験や深い洞察に根ざしています。そして、JUKI のイノベーションは、時間と共に価値を増し、お客様の未来を切り拓く基盤となります。
- ⑥ 私たちは、長年の製造経験と開発を通じて培った重厚な生産基盤を誇りにしています。この基盤こそが、イノベーションを可能にし、未来の産業と社会を支える源泉です。
- ⑦ 私たちは、持続可能な社会を築くため、環境への影響を最少限に抑えた製品・サービスを追求し、ものづくり企業として地球環境を大切にしていきます。
- ⑧ JUKI が提供する製品・サービスでお客様に感動をお届けします。私たちの営みが、ステークホルダーに心からの満足と共感を与え、広く響きわたることを目指します。

JUKIグループ経営理念体系

JUKI は、2025年度よりスタートした中期経営計画「Building Sustainable JUKI」に合わせて、経営理念を制定しました。新経営理念に合わせ、JUKI グループ経営理念体系を再構築し、企業としての方向性をより明確にしました。理念体系を改定するにあたり社員が理解し浸透しやすいシンプルな理念体系を目指し、どう経営判断や事業戦略につながっているかを構造的、視覚的に表現しました。

これまでの企業理念は、創業当時の社会情勢や会社創立時の志を言葉にしており、「創業の精神」に再定義しました。コーポレートスローガン Mind&Technology と合せて「私たちの原点」として JUKI の全社員が、世代を超えて受け継ぎ実践していく基本の精神としました。

経営理念 Management Principles

JUKI が存在する理由

JUKI がお客様と社会に提供すべき価値
全社員が共有する価値観

私たちの存在理由

JUKI グループは、
縫製技術で築き上げた実績を礎に、
「衣・社会のサステナブル」を支える企業で在りつづける

私たちのビジョン

*Innovation for your
Sustainable Future*

私たちの価値観

JUKI = 重機 重

重なる信頼	重みあるイノベーション
重厚なつながり	重厚な生産技術基盤
重みある責任	重視するサステナブル
重圧に負けない力	重く響く感動

中期経営計画 Mid-term Management Plan

JUKI が持続的な成長や競争力を
維持するために目標や方向性を明確にし、
社員や社外との連携を強化し、
社会への信頼性を高める

Building Sustainable JUKI

第1フェーズ 2027 成長分野へのシフトにより新たなビジネスモデルを構築

JUKIらしさを発揮し
存在感ある戦略パートナーへ

第2フェーズ 2029 3年間で育てたビジネスモデルを更に深化・持続的な成長を遂げる

「衣」と社会の未来を支える
唯一無二のソリューションパートナーへ

私たちの原点 Founding Principles

全社員が、世代を超えて受け継ぎ、
実践していく基本な精神
(原則・理念)

創業の精神

JUKI は、ここに集い、
人々のしあわせを実現し、
社会に貢献する

JUKI は、技術を創造し、進化させ、
新しい価値を生み出す

コーポレートスローガン

Mind&Technology

品質心得

お客様と共に創る
JUKI Quality

価値創造プロセス

解説 1

DX・GX・SX

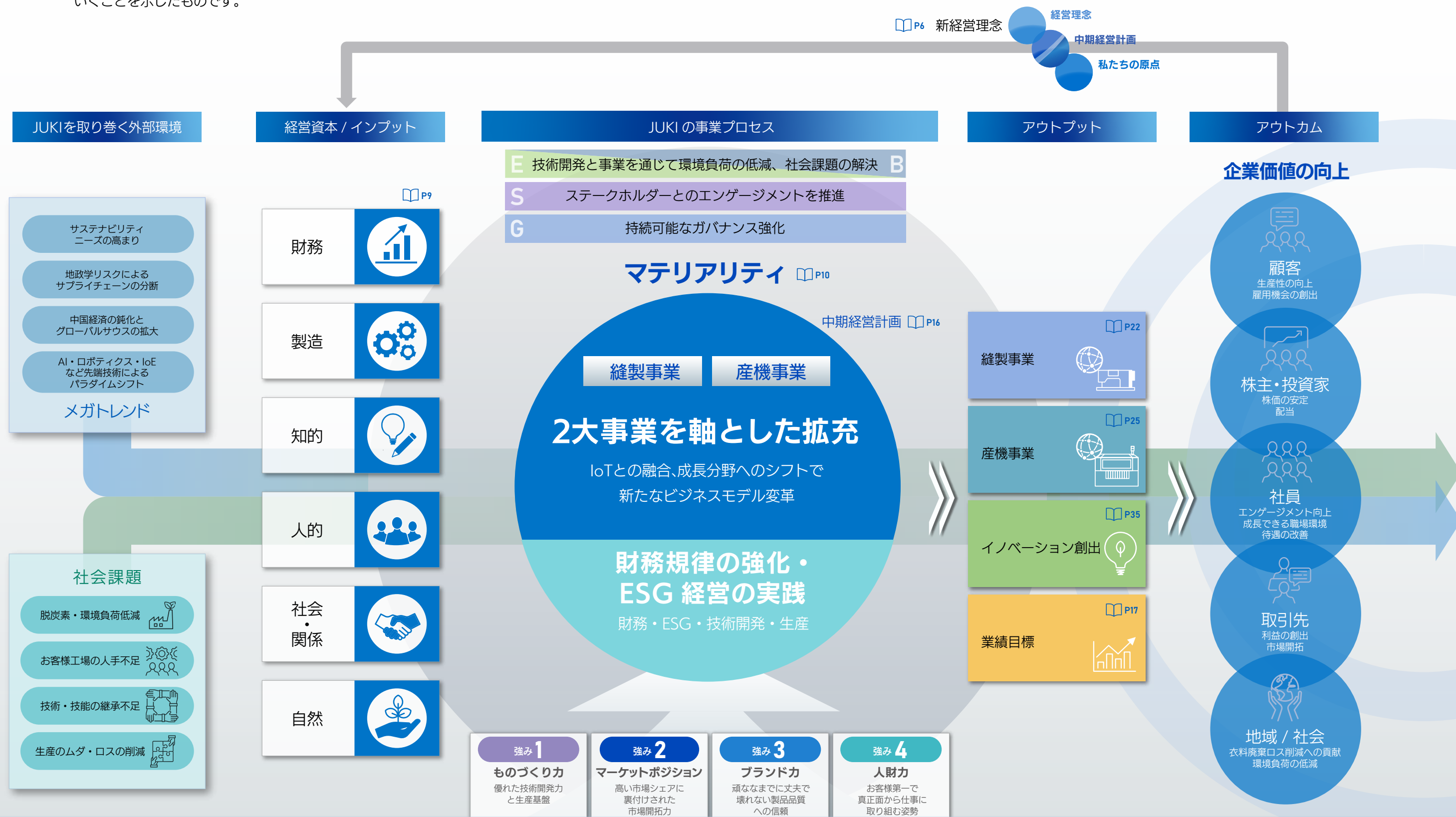
DX : Digital Transformation

GX : Green Transformation

SX : Sustainable Transformation

JUKI は、持続的に企業価値を向上させることを目指すために、これまでの価値創造プロセスを整理し、新中期経営計画の骨格として組み入れました。

6つの経営資本を効率的・効果的に活用しながら、縫製・産機分野で DX・GX・SX のソリューションを提供することで、多種多様な生産を担うお客様の社会課題解決に貢献します。ここで重要となるのは、お客様の潜在・顕在的な困りごとをお客様と近い距離で共創しながら、これまでにない独創的な価値を提供していくことです。この価値創造を支える基盤となる収益性向上の取り組みと ESG 経営の実践を位置付け、新経営理念を実現していくことを示したものです。



経営資本

JUKI の経営資本は、1938年の創業から永年にわたる企業活動を通じて培われ、当社の事業活動の発展と企業価値創造の「源泉」となっています。
これらの資本を成長・拡大させることで JUKI の強みをさらに強固なものにし、世界中のステークホルダーの皆様へ新たな「価値」を提供し、持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

資本と特徴		主な指標（2024年度）		経営資本の強化に向けた取り組み
 財務資本	- IR活動の強化における適切な情報提供を通じた株主・投資家との関係構築 - 開発/設備投資による新たな価値創造 - スリムで高効率な事業構造の構築	- 資本金180 億円 - 総資産1,422 億円		5カ年中期経営計画（2025-2029）P16-18 - 財務戦略P19 11カ年主要連結財務データP51 - 財務・非財務データP52
 製造資本	- JUKIグループ内での鍛造・加工・組立までの垂直統合型生産体制 - デジタル生産など、独自の生産方式を生み出す生産技術力 - 各工場に根付いた「改善」意識のDNA - グローバル市場に製品を安定供給できる生産基盤	- 有形固定資産 + 無形固定資産266 億円 - 製造拠点11 拠点 - 設備投資額39 億円	強み1	- 生産P37 - サプライチェーンマネジメント（調達）P38 - 品質保証P34 - JUKIのグローバル拠点P53
 知的資本	85年以上にわたる永年の研究・開発による技術の確立 - 各地の開発拠点間での技術伝承 - アライアンスや協業企業との技術交流によるイノベーション創出	- 研究開発費42 億円 - 開発拠点9 拠点 - 特許保有数1,527 件（特許＋実用新案）	強み3	- 事業戦略 縫製事業P22-24 - 事業戦略 産機事業P25-27 - 開発P35-36 - JUKIのグローバル拠点P53 - 外部からの評価P54
 人的資本	- 多様な人財の交流によるイノベーション創出 - 社内人財の最適配置と環境整備 - 多様な働き方を推進するデジタルツール活用による効率化 - 業績連動性報酬制度による高生産性人財の増加	- グループ従業員4,621 人 - 日本人2,149 人 - 外国人2,472 人 - 幹部候補育成プログラム参加者20 人	強み4	- 人財P32-33 - JUKIのグローバル拠点P53
 社会・関係資本	- アライアンスや協業企業との連携による価値創造 - 拠点地域との共生・社会貢献活動 - 法令順守と倫理的行動の徹底 - ESGを考慮したサプライチェーンマネジメントの推進 - マシンインストール台数シェアNo.1を活かした強固な顧客基盤	- 販売サービス拠点27 拠点 - ビジネス展開国185 カ国 - 永年培った顧客・取引先との信頼	強み2 強み3	- 事業戦略 縫製事業P22-24 - 事業戦略 産機事業P25-27 - サプライチェーンマネジメント（調達）P38 - 品質保証P34 - 社会貢献活動P39
 自然資本	- 環境負荷の低い製品の開発 - 製造工場での環境負荷低減活動 - 再生可能エネルギーの導入およびエネルギー効率の改善 - 再生品ビジネスにおける持続可能な社会の実現	- エネルギー使用量14,369 kl ※原油換算 - 水使用量357 千㎡ - 再生可能エネルギー使用量9,630,051 kWh（太陽光発電量＋非化石証書購入量） - ECO PRODUCTS / SUSTAINABEL PRODUCTS 認定機種8 機種		- 事業戦略 縫製事業P22-24 - 環境P30-31 - 生産P37 - サプライチェーンマネジメント（調達）P38 - 社会貢献活動P39

マテリアリティ

サステナビリティ方針

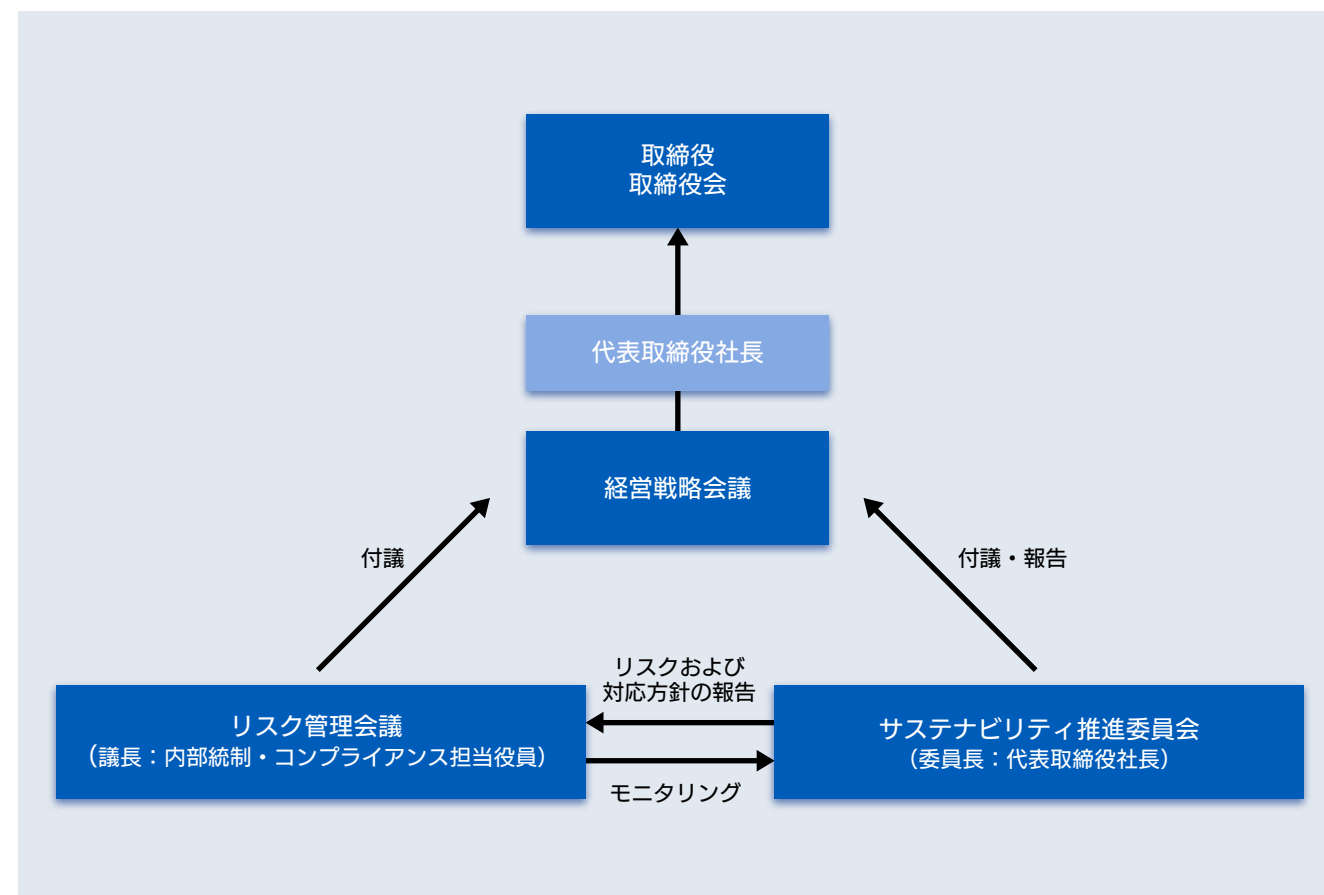
JUKIは、コーポレートスローガン「Mind & Technology」の思想である、心の通う技術とお客様第一主義で社会に役立つ製品・サービスを創造・提供し続けることで、持続可能な社会を実現します。

JUKIは「JUKIグループ経営理念体系」に基づき行動し、持続的な企業価値の向上を目指します。

推進体制

2022年8月よりサステナビリティ推進委員会を設置し、年4回、サステナビリティに関する方針・計画・施策の審議決定、進捗管理を行い、取締役会などに報告・提案を行う体制としました。またサステナビリティ推進委員会にて把握・対応・検討したリスクは、リスク管理会議にて報告し、ガバナンスを強化する仕組みとしています。

サステナビリティ・マネジメント体制

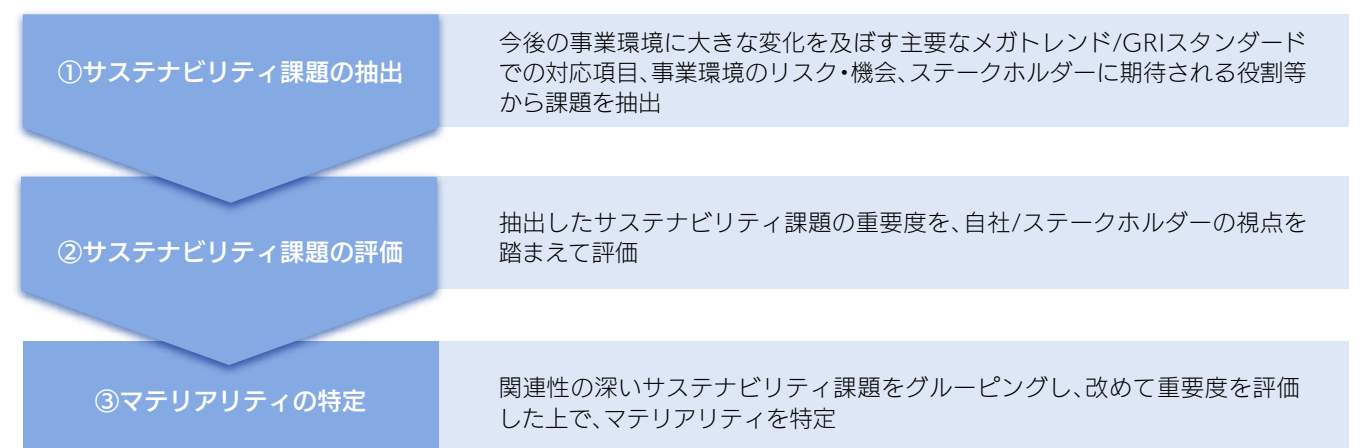


マテリアリティ特定プロセス

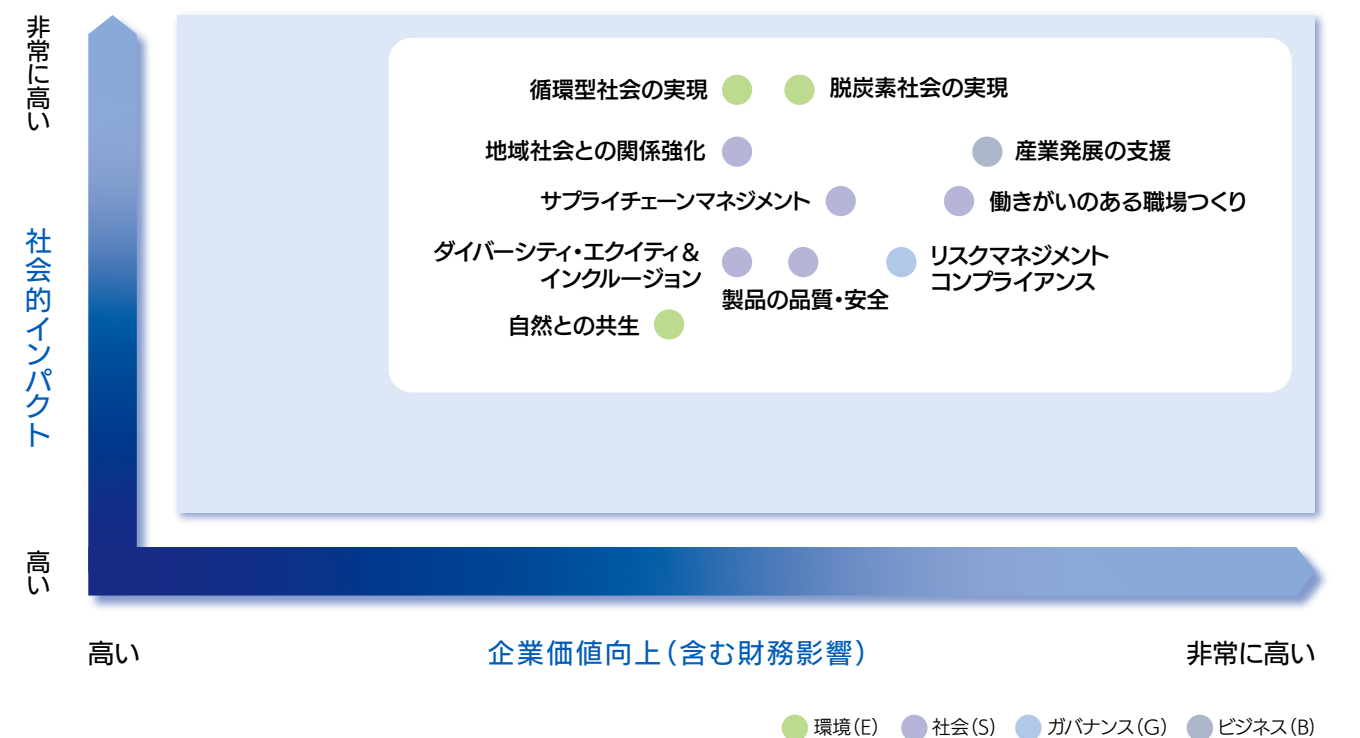
JUKIでは、今後事業環境が大きく変化していく中、JUKIおよびステークホルダー双方の視点を踏まえ重点課題を抽出しています。2025年度は環境や社会が企業に与える影響だけでなく、企業が環境・社会に与える影響も踏まえた「ダブル・マテリアリティ」の考えに基づき、マテリアリティの見直しを実施し、新たなマテリアリティ・マトリックスを設定しました。

JUKIと社会双方のサステナビリティ向上に取り組み、「Sustainable JUKI」の実現を目指します。

見直しプロセス



マテリアリティ・マトリックス(ダブルマテリアリティ)



マテリアリティー一覧表詳細版

区分	マテリアリティー		主な取り組み -目標値-	範囲	2024年度の進捗
E 環境	E-1 脱炭素社会の実現	自社のエネルギー効率改善/再生可能エネルギー導入/環境負荷の低い製品開発等を通じて、温室効果ガスの排出量 (Scope1.2.3)を削減する。	① Scope1.2の排出量削減 - 2030年度までに2013年度比△50%、2050年度までに2013年度比△80% - ② Scope3の排出量削減 - 2030年度までに2022年度比△25%、2050年度までに2022年度比△80% -	グローバル	① 2013年度比 △38% ② 2022年度比 △40%
	E-2 循環型社会の実現	廃棄物処理プロセスの最適化/再生可能材料の利用拡大により、資源の効率的な利用と廃棄物の削減を進める。	事業活動を通じて排出される廃棄物の削減 - 廃棄物リサイクル比率の改善 -	グローバル	廃棄物リサイクル比率74.8% (前年度比で△0.9%改善)
	E-3 自然との共生	法規則の順守・有害大気汚染物質等の抑制により、事業活動が生物多様性に与える影響を最低限に抑える。	環境法規則の遵守 - 違反件数0件 -	グローバル	0件
S 社会	S-1 働きがいのある職場づくり	社員との対話、および社員の成長と健康促進につながる様々な機会を提供することを通じて、一人ひとりが働きがいをもって働ける職場環境を整備する。	① 経営層/社員間の対話の促進 ② 社員のキャリア形成支援 ③ 幹部候補育成研修の実施 ④ 定期健康診断の実施 - 受診率100%維持 - ⑤ 特定健診受診率・特定保健指導の実施 - 受診率・実施率100%維持 - ⑥ 有給休暇の取得促進 - 2027年度までに年間有給休暇12日以上を取得者比率80%以上 - ⑦ 法定外・法定休日労働時間の削減 - 2027年度までにフルタイム労働者の法定外労働時間平均月30時間以下 -	① グローバル ②③④⑤⑥⑦ 本社	① 国内外拠点と計8回のタウンホールミーティングを実施 ② 若手・中堅社員を対象としたキャリアアトークルーム (先輩社員とのキャリア交流会)の実施 ③ 幹部候補20名を対象に計6回のワークショップを実施 ④ 100%維持 ⑥ 50.6% ⑤ 100%維持 ⑦ 法定外労働時間 月平均8時間
	S-2 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン	多様な価値観を受け入れ、平等な雇用環境を整備することで、すべての社員が活躍できる組織を実現する。	① 女性管理職比率の向上 - 2030年度までに30% - ② 男性育休取得率の向上 - 2027年度までに80% - ③ 男女賃金差異比率の是正 - 2028年度までに90% - ④ 障がい者雇用率の向上 - 2025年度までに2.5% -	①②③④ 本社	① 7.8% ② 62.5% ③ 83.8% ④ 2.1%
	S-3 地域社会との関係強化	地域活動への参画や、地域社会に対する教育機会の提供を通じて、地域社会との関係性を維持・強化する。	① 地域活動への参画 ② 地域社会への教育支援	グローバル	① 地域社会が主導するプログラムへの参画 (主な取り組み) ・多摩市ESDコンソーシアムへの参画 ・多摩市産業振興推進会議への参画 ・多摩市聖蹟桜ヶ丘オーバ主催「エコフェス2024」でのアップサイクルイベントの参画 ・ホーチミン工科大学の奨学金支援制度への参画 ② 教育機関からの社会科見学の受け入れ (主な取り組み) ・国内: 多摩市近郊小学校3校の受け入れ ・国外: インド工科大学ガンディナガル校の受け入れ
	S-4 サプライチェーンマネジメント	取引先の社会的影響評価も含めたマネジメントを行うことで、持続可能なサプライチェーンを実現する。	① 調達プロセスにおける各法令の遵守 - 遵守率100% - ② 国内主要サプライヤーとの定期的な研修会の実施	① グローバル ② 国内	① 100% ② 計3回
	S-5 製品の品質・安全	品質管理体制の強化、製品安全基準の維持により、製品の品質/安全性を確保する。	① 品質マネジメントシステムの維持・管理 - 生産工場におけるISO9001の取得率100% - ※設立1年未満の工場は除く ② 品質に関する啓発活動の実施	グローバル	① 100% ② 社内の品質意識向上に向けた全社QC活動 (JUKI Global Quality Management Forumの実施)
G ガバナンス	G-1 リスクマネジメント	事業環境におけるリスクを正しく評価し、その影響を最小限に抑えるための取り組みを行う。	① リスクマネジメントの強化 - 重要リスクの特定と対応率100% - ② 重大な労働災害の防止 - 重大事故の発生件数0件 - ③ 情報セキュリティ教育の実施 - 対象となる受講者の合格率100% -	グローバル	① 100% ② 0件 ③ 95% (対象2,921名)
	G-2 コンプライアンス	法令順守と倫理的行動の徹底により、透明性の高い事業運営を推進する。	① コーポレートガバナンスの強化 - コーポレートガバナンスコード遵守率100% - ② ハラスメント研修の実施 - 対象者の受講率100% -	① 本社 ② グローバル (国内主要拠点のみ)	① 100% ② 91% (対象1,023名のうち受講者935名)
B ビジネス	B-1 産業発展の支援	自動化/環境負荷低減/労働環境改善/人材育成等の課題解決支援等、顧客課題の解決を通じて、衣・社会の産業発展を支援する。	社会課題解決につながる製品の提供 - 該当年度にJUKI SUSTAINABLE PRODUCTSに認定された上市件数 -	縫製・産機事業	2件 (LK-1900C、LX-8)